

いのちと健康

ニューズ NO. 34

1993年 2月15日

愛知働くもののいのちと健康を守るセンター

名古屋市中区平和二丁目2番3号

高齢者労働会館5F TEL. FAX 052-322-0406

編集発行責任者 中原 東四郎

名古屋水道労働組合が 重大災害発生で下水道局に抗議 下請労働者の労災死亡で

名古屋水道労働組合は、1/16下水道局に下水管敷設現場で下請け労働者が労災死亡した事故について、再発防止対策と遺族補償を行なうよう申し入れしました。

これは、下水道敷設現場で昨年1/20と11/21の2度の事故で2人の下請け労働者が労災死亡したことを重視しておこなわれたものです。

申し入れの内容は、

- ① 重大災害を発生させた請負人の責任を明確にし、最低2年間下水道事業の指名を除外し、あわせて名古屋市関係の事業からも除外するよう関係機関に申し入れること。
- ② 発注者における当該管理職の責任を明確にすること。
- ③ 重大災害の防止対策を、局内及び請負人に命じするとともに、再発防止の具体策を立てること。
- ④ 遺族補償は誠意をもって対応し、死亡見舞金は名古屋市に準じておこなうこと。

以上

(名古屋水道労働組合より取材)

在職死亡が半年で5人 労働災害防止対策で申し入れ 夜間勤務中に倒れ死亡

昨年、12/27 午前7時5分頃下水道局八剣ポンプ所で夜間勤務中の阿部喜好さん(54才)が、1階控室で倒れているのを発見され、同僚の手配(救急車)も空しく、心不全で死亡されました。

労働組合では、「在職死亡 ゼロ」をめざし、組合員の安全と健康を守るとりくみを精力的にすすめてきましたが、残念ながらこの半年で5人の在職死亡(水道局3人・下水道局2人)が発生しました。

今回の勤務中の死亡について、対策をたてるよう申し入れをおこないました。

申し入れの内容は、

- ① 類似災害の防止のための対策を緊急にたてること。
- ② 勤務中の死亡であり、公務との関連を明らかにし、公務上災害として認めること。
- ③ 死亡にともなう欠員をすみやかにおこなうこと。

以上

(名古屋水道労働組合より取材)

「トヨタ」の労働・生活アンケート

1/23・人間らしく生き働くための集会
若月忠夫氏報告から抜粋

「自分の健康」に最も不安感

現在困っている点、不安に思っている問題は何か。

●全体のトップは「自分の健康」で、39.6%と4割程度も見られる。

次いで「住宅」29.1%、「趣味・レジャー時間の不足」22.7%、「老後の生活」22.2%「仕事がきつく身体が疲れる」20.8%などとなっている。

●性別でみると男性は「自分の健康」「住宅」「老後の生活」の順。

女性は、「人間関係」「仕事」「自分の健康」の順。

●年齢別（男性）では「自分の健康」について高年者になるほどその比率が高くなっている。

若年層でも「自分の健康」が上位にあげられており、『健康問題』は世代をこえて共通の問題になっている。

ストレスを感じている人は60%

日頃、ストレスを感じているか。

●「非常に感じている」人は16.2%「少し感じている」が43.8%となっており、全体の60.0%がストレスを感じているとしている。

●性別では、男性の59.6%にたいし女性の方は63.7%と上回っている。↗

「疲労の最大原因」は労働時間の長さ

↗何らかの疲労感を訴える8割程度(78.1%)の人があげる疲労原因としては、「労働時間の長さ」が52.4%で最も多い。

また「仕事量の多さ」も48.9%みられ、3位の「長時間の神経集中」(28.1%)との間に大きな格差がみられる。

「仕事密度の高さ」27.6%、「人間関係への気配り」23.6%など種々の原因があげられるが、何といても「労働時間の長さ」「仕事量の多さ」が疲労の最大原因となっているようだ。

●「仕事量の多さ」は男女とも4割以上の高さであるが、女性の場合は「人間関係への気配り」もかなり疲労度を増す原因となっている。

●年齢別（男性）では、「労働時間の長さ」は若年層ほど高い。

●職種別（男性）でみると、どの職種も「仕事量の多さ」「労働時間の長さ」が上位を占める点では変りないが、事務員・技術員での「他部署との調整に神経を使う」、特務員での「長時間の神経集中」が上位にあげられている点が目につく。

また技能員において他職種にくらべ「激しく体を使う」点の比率が高まっている。



業者のくらしと健康実態調査

調査期間・・・'91.9.8～20

対象・・・ 会員 1,836 名

配偶者（女性）・・・ 915 名

合計 …………… 2,751 名

有効回答率…… 92.44 %

今回の調査は、10人以下規模の企業を対象とした。

それによると、90%以上が副業をもたない単一専業型であり、75%が5人以下の零細規模事業所である。

こうした小規模の自営業では家族労働力の依存度が高く、営業主とその配偶者はどうしても長時間労働せざるをえない状況に追い込まれやすい。

●労働時間では、一日の労働時間が、10時間をこえている男性営業主が44.8%、女性営業主が40.5%である。

配偶者（女性）でも10時間以上という人が28.7%となっていて、夫婦一緒に長時間労働（家事も含む）をおこなっている。

●睡眠時間・休日は、一日の睡眠時間6時間未満が7.8%で大半は平均6時間以上である。

休日は、定休日を設けている人が71.5%で、「週1回」が64.1%で、「各週2回以上」が12.6%である。

●健康管理は、ほぼ60%の人が毎年または近年健康診断を受けているが、そのうち18%（受診者の35%）が「要精密検査」で異常の疑いがでている。

しかし、再度検査を受けたのは70%であとの人は放置されている。

「業者のくらしと健康の現状」抜粋

業者のくらしと健康実態調査
健康者は29%要治療が71%
愛知県商工団体連合会が実施

愛商連共済会で行なっている集団健康診断結果（1992.7～12）は、受診者594名のうち、異常なし（健康者）は28.96%、要治療は30.14%、要精査は18.01%、要観察は22.89%という結果です。

名古屋市の成人検診の結果は、異常なし（健康者）は45.1%、要治療は20.4%、要指導は13.4%、要観察は21.0%となっています。

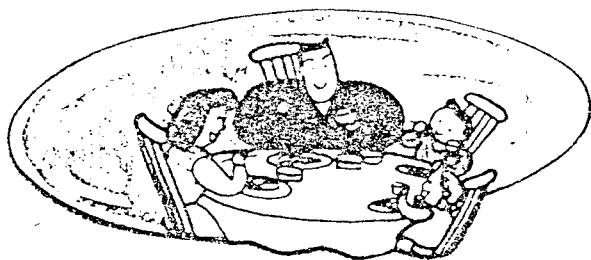
全商連共済会の調査によれば、特徴的なことは自殺者の増加がいちじるしいということです。

昨年の自殺者は57名でしたが、今年は9ヶ月で52名と同期間で比較するならば大幅な増となっています。

これらの原因は、いずれも病苦と経済苦が結び付いたもので、ここに今日の不況と深くかかわっている問題として、断じて見過ごすわけにはいきません。

自殺は精神的苦痛からくる過労死といわれています。

ここに今日の中小業者のおかれている厳しい側面をみることができます。





お知らせ

第2期 いのちと健康大学

大変好評をうけました「いのちと健康大学」の「第2期」を次の日程で開催します。
労働組合・民主団体の組合員・会員のみなさん！ 誘いあってご聴講をお願いします。

第1回	2月23日 (火)	からだ(身体)のしくみとはたらき 山田 信也 (名古屋大学医学部教授)
第2回	3月11日 (木)	労働基準法・労働安全衛生法の職場での活用の仕方 伊藤 欽次 (愛知労働問題研究所事務局長)
第3回	3月23日 (火)	長時間労働と過労死をなくすために 佐々木 昭三 (あいち職場の健康問題研究会事務局長)
第4回	4月6日 (火)	人間らしい生活と自由時間の拡大 長谷部 美智子 (愛労連婦人協)
第5回	4月20日 (火)	夜勤・交替制労働と私たちの健康 小野 雄一郎 (名古屋大学医学部衛生学教室)
第6回	5月11日 (火)	職場の労働安全衛生活動のすすめ方 吉川 正春 (名古屋水道労働組合副委員長)
第7回	5月25日 (火)	私たちの労働・生活と成人病 内山 集二 (愛知県保険医協会)
第8回	6月8日 (火)	人間らしく働くためにー「快適職場ざして」 宮尾 克 (名古屋大学医学部公衆衛生学教室)
第9回	6月22日 (火)	私たちの権利と社会保障 加藤 孝夫 (愛知社会保障協議会事務局長)
第10回	7月6日 (火)	いのちと健康を守るとりくみの歴史と視点 山田 信也 (名古屋大学医学部教授)

- ◆時間：いつでも午後6:30より8:30まで ◇参加費：全日程 10,000円
◆場所：高齢者労働会館2F会議室 (未加盟 11,000円)
(都合により変更することがあります) 選択 1回 1,500円
◆定員：50名 (未加盟 1,800円)
◆申込み：愛知健康センターTEL 322-0406 ※ 参加費は、当日受付でお受け
所属と氏名を事務局へ連絡して下さい。 します。